

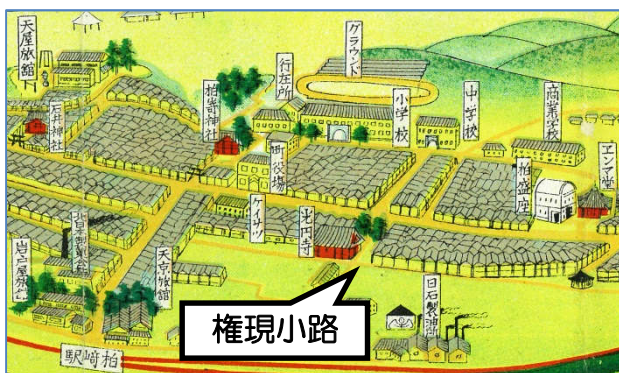
# 坂さんぽ ⑤

柏崎駅からガス水道局方面に600mほど進むと南町交差点に出る。ここから東本町に向かう坂道は権現小路と呼ばれる。権現小路という名は、近くに熊野権現があったことに由来しており、『柏崎文庫』にも「この小路に権現社ありしを以て名づく 柏崎本町より比角田地に通ずる狭き小路」とみえる。現在、この道は拡幅され、直線的な大きな通りになっているが、戦前は自動車も通れないような細くて曲がり角の多い道であった。

## 「南町の坂（<sup>こんげん</sup>権現小路）」



かつて、小路の近くには、この地の旧家・前川氏の屋敷があった。前川氏は屋敷神として熊野権現を祀っていたことから「こんげんさん」と呼ばれた。権現社は、前川氏の敷地の、小路との境にあったが、小路の方から入ってお詣りすることもできたため、近所の人々の参詣が多かった。後年、参詣者が使いやすいよう、権現社は小路の南側に移され、町内の鎮守になったという。なお『白川風土記』には、3月15日が権現社の祭礼とある。当時の人々は、祭礼の日には赤飯やおぼろ汁などを用意して親類縁者を招き、各々趣向を凝らして楽しんだという。しかし明治のはじめ頃、町会所からの命令で、権現社は柏崎神社に合祀された。その後、権現社のあった場所は畑になったとのことである。



右上写真：戦後の権現小路（昭和20～30年代か）

真貝新一氏撮影写真

左中央図：昭和3年頃の権現小路

『柏崎市街図』（昭和3年発行）より

左下図：光円寺の右脇が権現小路

『柏崎名勝図絵御殿山案内』（昭和3年発行）より